

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスまるさんかくしかく		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動を選択できること	子どもたちが自分で活動内容や活動時間を決めることができるため、楽しみながら人のかかわりなどを学ぶことができる。楽しみがあるからこそ、ちょっといやなこと(宿題など)も頑張ろうと思える。	職員配置や利用児童の特性などに応じて少人数のグループに分けて支援をおこなっていく。また、選択する活動に偏りがある場合は、ほかの活動への誘い掛けをして活動の幅を広げていく。
2	活動内容の充実	近隣の事業所と連携し、ホースセラピーを提供している。畑を借りて野菜を育てることで、作った作物の成長を実感し、収穫して調理することで、食育にもつなげることができる。プログラムにない活動でも、児童がやりたいという気持ちがあれば、職員で検討し、いつどのような形で取り組むことができるのか、どう理由でこの活動はできないのかを児童に説明している。	子どもたちの自主性や意思の尊重を図るため、思いを伝えられる環境を整える。具体的には、言葉での表出や理解が難しいお子さまでも伝えられる視覚的コミュニケーションツールなどを使い、支援者と児童が正しく意思疎通を図れるようにする。
3	利用児童の年齢層の広さ	小学1年から高校3年までの児童・生徒が在籍しており、兄弟姉妹のような感覚で様々な年齢の子どものかかわりができる。	活動は年齢別でわかれる時もあるが、興味のある分野が近い場合は、小学生と高校生が1つのグループになったり、中学生が小学生にお手本を見せてあげて一緒に活動したりすることもある。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭いこと	活動スペースを一時的にカーテン等で仕切って中高生が制服から私服に着替えをしたり、体調のすぐれない児童が横になったりするスペースを設けているため。	体を動かすためのホールを借りて運動したり、宿題をする児童は事業所で、他の活動をしたい児童は外や連携事業所で活動スペースを分ける。
2	保護者同士または地域住民との関わりが少ないこと	開所して間もない事業所であるため、交流する機会を設けられていない。	参観日や交流会の機会を設け、保護者間の交流を図る場を作る。地域の方々に向けて回覧などで活動報告をしたり、イベントを企画し、活動を知ってもらう機会を作る。
3	職員の専門知識の偏り	保育士、看護師、教員などの資格保有者が在籍するが、障がい福祉分野の専門性としては経験が浅い方もいる。	これまでの専門分野での経験を活かしつつ、障がい福祉分野の知識と経験を培っていく。研修会やサークル活動、保護者や支援者の集まりなどに積極的に参加する。